

2

昨日3

今日0

since 2000/08/07

分家ケータイ版 トップページ

25300

since 2001/01/19

ご連絡は
info@kaaad.com
までお寄せください

▶ 2004年におけるヨ・ロッパ圏を中心とした陸上カレンダーです。エクセル形式(194KB)もしくはpdf形式(16KB)からダウンロードしてください。

[2003/12/19]

▶ BRITISH OPEN ATHLETICS CHAMPIONSHIPS 2004のお知らせ IPC公認大会であります“BRITISH OPEN ATHLETICS CHAMPIONSHIPS 2004”の開催要項をアップしましたこちらからダウンロードしてください (pdfファイル 300KB)

過去の記事参照 → [協会からの お便り]

コメントをどうぞ

ぜひ感想等お寄せ下さい(匿名でもどうぞ)。但し、返信希望の方は返信先アドレス明記の事。(宛先がわからないためです)

Comment form area with a text input field and a submit button labeled "コメント送信".

- ・01/31 10 09 最新記事
- ・01/31 19 57 最新コメント

■「美恵の栄養トピック」New!

- 06/17 13 43 最新記事
- 06/23 22 45 最新コメント

■「特派員情報」

- ・02/03 08 28 最新記事
- 02/05 20 31 最新コメント

■「いなちゃん日記」

- ・01/06 18 25 最新記事
- 02/02 12 03 最新コメント

●「PC & HPの部屋」

- 10/04 14 43 最新記事
- 01/03 13 32 最新コメント

●「おみくじ付きチャット」

- 01/25 13 13 最新書込み
- 参加(0名) 見学(0名)

関東身体障害者陸上競技協会へのリンクは自由です。

Copyright(C) 2000 06 KAAAD

関東身体障害者陸上競技協会への連絡は、info@kaaad.com まで

back [陸上競技 WEB RING] next
random list

IAHD

Presented by
International Association for Handicapped Divers Japan

IAHD TOP

PROFESSIONAL

IAHD SHOP



IAHD JAPAN

NPO法人 国際障害者ダイビング指導協会

1 3 2 2 3

From 01, SEP. 2000



IAHDとは

IAHDとはInternational Association for Handicapped Diversの略。オランダに総本部を置く障害者ダイバーの育成と障害者ダイバーを指導するプロダイバーを養成する国際的な団体です。

1980年以来ダイバーとして活躍してきたモリス・ペリーが1993年にIAHDを設立しました。

現在、何千人ものIAHDインストラクターが世界中で活躍しており、本協会はダイビングを通じて心と体のリハビリテーションを推進し、障害者と健常者の壁を取り除く事で、福祉の向上に貢献する事を目的としております。



総本部のページへ

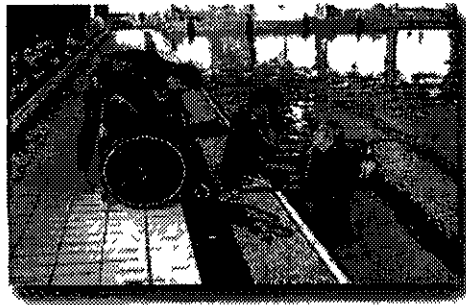


IAHD 規約

IAHDの目的とゴール

・ 始めに

私達の活動目的は障害者がダイビング活動に参加する際のあらゆる壁を無くし、他のダイバーと同じくダイビングを楽しめる環境を作る事です。障害者の方がダイビング活動に参加する際、障害のタイプにより特別なコミュニケーション方法から潜水テクニックが必要となる場合があります。しかし現在では、まだそれらについての世界的に統一された基準がなく、障害者ダイバーは決まったバディーやダイビングSHOP以外で活動する際に問題が生じてきます。



同じ基準、コミュニケーション方法を世界的に統一していく事により、障害者ダイバーはたのダイバーと変わる事なくダイビングを楽しめる環境作りが整ってくる事でしょう。

当協会の活動に多くの方々からのご協力を承る事を心よりお願い申し上げます。

- ・ スクーバダイビングにおける身体障害者に対するトレーニングの基準を開発する。
- ・ 身体障害者に対してスクーバダイビングを勧めプロモートする。
- ・ 認定ダイバーに対して身体障害者と共に安全に替れるようになる為の基準の設定やトレーニングプログラム/教材を開発する。
- ・ プロフェッショナルメンバーに対して身体障害者を安全に替れる様にトレーニングしガイトできる様になる為の基準の設定やトレーニングプログラム/教材を開発する。
- ・ プロフェッショナルメンバーに対してアップデートセミナーを開催する。
- ・ 全てのメンバー(プロフェッショナル及びノンプロフェッショナル)に障害者ダイバーの為の最新のテクニック、教材、器材の情報を伝える。
- ・ メンバーに対してダイビング旅行のプロモートやサポートを行う。

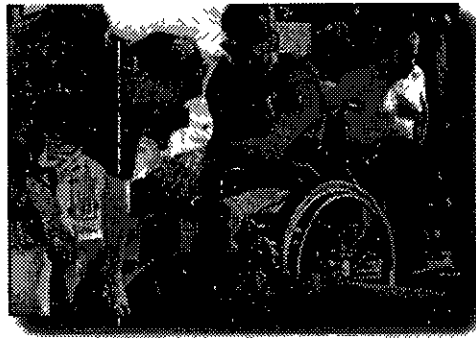
障害者のためのダイビング

<http://www.npo-iahd.org/iahd.htm>

2004/02/07

● 障害者の為のダイビング

諸外国では、障害を持った方がダイビングをする事は子供がおはじきで遊ぶ事と同じくらい当たり前の事です。社会の福祉機関や団体がIAHDを支援しており、障害者の為のリハビリセンターへ参加することにより、障害者の方々は気兼ねなくダイビングに参加することが可能です。世界的にIAHDは有望な発足をし、日本でも近い将来たくさんの障害者ダイバーがダイビングを体験すると考えています。



障害者にとってダイビングは、肉体の限界を忘れる事のできる唯一の方法であり、自らの重さの限界も感ぜずに自由に動き回れるすばらしい体験を想像してみてください。精神的、肉体的にもリハビリテーションに重要な発奮材料となる事でしょう。ダイビングは、そのものがとても忘れられない体験です。全ての人に与えるこの異次元の体験は、最高の感動となるでしょう。

IAHDの基本理念

身体の運動を伴うレクリエーション活動を定期的に行えば、身体上も精神的にも、より健康になれるという事は、よく知られています。他の人達と、相互に影響を及ぼし合う事によって、社会生活も充実したものとなるはずで
す。それでは、このようなすばらしい世界を、障害を持つ方々と一緒に楽しめる環境を想像してみてください。スクーバダイビングのようなレクリエーション活動に参加する事によって、人々が受ける恩恵は、計り知れないものがあるのです。



上記の様な恩恵に加えて、活動に参加する事で個人のリハビリテーションも進み、社会への“メインストリーミング”促進の一助となるはずで
す。

また、障害を持つ方々がスクーバダイビングのトレーニングをする場合の危険性か、健常者よりも高いということはないと、私達は認識しています。

スクーバダイビングの習得には、使用する器材の基本的な理解と、危険をできるだけ少なくする安全の為のルール、そして水中の世界を安全に楽しむための適宜のトレーニングが必要で
す。

障害を持つ方々のダイバーをトレーニングする事で、得るところは非常に大きいもので
す。インストラクターにとっても、そして障害者生徒自身にも同様に、その経験は非常に充実した、楽しいものとなるでしょう。トレーニングが成功した場合の成果は、インストラクターと生徒に、スポーツへの新たな関心と、常に積極的に取り組み立ち向かう勇気を与える事か
てきると確信します。

IAHDの活動と理念をご理解頂き 障害者ダイビングの推進にご協力下さい

<http://www.npo-iahd.org/iahd.htm>

2004/02/07

札幌FIDスポーツサポーター



クリア

知的障害をもつ人の生涯スポーツと
スポーツのノーマライゼーションを目指す
ボランティア団体



- 『クリア』は知的障害児・者がスポーツを楽しめるよう応援する札幌のボランティアグループです。現在はFID サッカースクールのサポートを中心に活動しています。
- FID サッカースクールは、子ども達の余暇の時間を豊かなものにさせてあげたい、運動する機会を作ってあげたい、スポーツを通して社会性を育てたい、地域参加の機会を作ってあげたい、仲間づくりをしたいという親の思いから始まりました。
- 北海道サッカーアカデミーとFIDスポーツサポーター『クリア』が車の両輪のように、FID サッカースクールを運営していきます。
- さらに『クリア』は、障害を持つ人たちがのびのびとスポーツを楽しむ機会や選択肢が増えていくことも目指しています。

FID, For Intellectual Disabilities【知的障害者のための】

クリア、サッカー用語『守っている選手が、味方のゴール近くの危険なところからボールをけり出して、ピンチを切り抜けること』

FID サッカースクール

FIDスポーツサポーター
『クリア』

(目的)この会は、知的な障害をもつ人たちとともに日常生活の中で継続的にスポーツを楽しむ機会をつくり、スポーツの特性を活かした地域社会参加の応援活動を通し、知的な障害をもつ人のスポーツのノーマライゼーションとインクルージョンをサポートすることを目的とする。

(会員)この会の会員は会の目的に賛同し、北海道サッカーアカデミーFIDサッカースクール生の保護者、援助会員、賛助会員とする。

(事業)

- FIDサッカースクールのサポート
- ボランティアの募集
- FIDスポーツ活動のサポート
- サッカー通信の発行
- ホームページの開設
- その他

ボランティア募集

「サッカー指導の補助」「一緒にサッカーを楽しみたい」「サッカーはしたことないけれど、応援したい」「サッカースクールの送迎を手伝いたい」というサポーター

指導者 元コンサドーレ札幌監督高橋武夫(日本サッカー協会公認A級S級コーチライセンス 所有 JFL総務委員 技術責任者)の下、北海道サッカーアカデミー指導員 指導補助ボランティア 保護者ボランティアの協力で運営されます。

募集会員 各クラス50名(先着順)

見学 体験はお気軽にどうぞ。問い合わせ
TEL/FAX 011-533-7539(星川)

会費

	年会費(スポーツ障害保険を含む)	月会費(内1000円は指導者育成金)
幼 小 中	4000円	3000円
高 校 生 以 上	5000円	4000円

ーボランティアを募集しています。男女 障害 健全を問いません。

サッカーに限らず、スポーツを通して知的障害児者と交流したい、というボランティアの申し出も大歓迎しています。

申込み 問い合わせ先 TEL/FAX 011-533-7539 (星川)

関連障害者団体へのリンク

- 日本障害者サッカー協会は 障害者が健全者と共にサッカーを楽しみながら身体を鍛え 協会相互の親睦を図り 互いの協力と自らの努力により 障害を乗り越えて 社会的文化的向上を図るとともに 日本での障害者サッカーの普及 及び国際大会等へ参加することを目的として設立されました 横浜トリマーのメンバーが中心となって 活動を行っています 今後全国に支部を作り 障害者サッカー活動の援助を行います
- 障害者情報ネットワーク「ノーマネット」は 厚生省の委託により財団法人日本障害者リハビリテーション協会が運営する全国規模の利用者参加型パソコン通信ネットワークです。障害のある人の社会参加のため 必要な情報を確に確保 提供することを目的としています 障害者スポーツ関係のリンク集も充実しています
- 札幌自閉症児者親の会「オブラ会」は 札幌市の自閉症の子どもを持つ親が中心となって活動している団体で 現在332名が加入しています
- 「北海道小鳩会 ダウン症候群父母の会」は 北海道のダウン症児の親たちが子供たちの幸福を求めて集い 未来へ向かって活動している会です。

FIDスポーツサポーター「クリア」活動記録

1998年(平成10年)

- 12月20日『高橋武夫の一日サッカー教室』開催
 - 会場 中島体育館軽スポーツ室
 - 1時間 体験教室
 - 1時間 説明会・アンケート調査
 - 参加者 55名(本人)
 - FIDサッカースクール開校準備期間

1999年(平成11年)

- 1月20日 FIDサッカースクール開校
 - 月2回
 - 『一日サッカー教室』参加者25名
 - ホランティアグループ結成(4/1付き)
 - 名称 『FIDスポーツサポーター・クリア』
 - 札幌市社会福祉協議会登録(ホランティア活動保険加入)

- 2月 千歳市福祉施設(知的障害)から『一日サッカー教室』依頼
- 3月 『Jrウィンタートライアスロン大会inトマム』
 - スクール生4名参加 全員完走
- 5月 スクール開催日を月4回(原則 週1)とする。
 - 入会者 小・中クラス 43名 (最多時)
 - 高校生以上クラス 23名 (同)
 - (一般ボランティア)登録者数 79名 (11月現在)
- 7月 北海道障害者スポーツ大会視察(釧路市) 5名
- 7月18日 『札幌ゆうあいピック大会』ボランティア派遣10名
- 7月31日～8月1日 『Jrトライアスロンキャンプ&レース大会in早来』
 - 参加選手 10名(9名完走)
 - ボランティア13名(運営・伴走)
- 7月 『スポーツチャンバラ大会』出場(4名)
- 7月中旬より ゆうあいピック参加選手選抜合同練習
- 9月 千歳社協から『ふれあいサッカー教室』依頼(参加者42名)
 - 指導(アカデミー) 4名
 - 指導補助ボランティア(クリア) 5名
- 9月『山の手高校サッカー部』と練習試合、『第1レディース』と練習試合
- 9月30日～10月4日 『ゆうあいピック全国大会』出場(島根県)
 - 札幌市代表
- 10月 『ZERO'S』と両竜高等養護学校の交流試合視察
- 12月 『ZERO'S』、北海道光生会とのフットサル交流試合
 - ボランティア7名参加

2000年(平成12年)

- 1月9日 クリア主催『一日トライアスロン教室』開催
 - 参加者 24名
 - 講師(株サッポロスキッド) 2名
 - ボランティア(クリア) 6名
- 3月26日
 - 第一回ハンディキャップフットサル大会開催
 - 『クリア』共催
 - 大会運営委員会設置基準(1月中旬～)
 - 場所 道立総合体育センター
 - エキシビションとして『FIDサッカースクール』小学生クラスの公開練習

お問い合わせは星川まで



Happy Teppy

※ 自閉症のままで

飛べ！より遠くへ 広がれ！仲間のおもてなし

ようこそ！静岡県障害者フライングディスク協会のホームページへ

あなたは、 番目の大切なお客様です。



第3回全国障害者スポーツ大会わかふじ大会
フライングディスク競技
15/11/9～10 袋井市総合運動公園芝生広場4

- [トップページ](#)
- [協会のご案内](#)
- [競技のご案内](#)
- [活動のご案内](#)
- [イベントのご案内](#)
- [お問い合わせ](#)





さしっぴー

「第3回全国障害者スポーツ大会わかふじ大会フライングディスク競技」が平成15年11月9日(日)～10日(月)の2日間、全国各地から420人の選手が集い、袋井市総合運動公園芝生広場4で行われました。

ディスクをどれだけ遠くへ飛ばすかを競うディスタンス競技と、5m(7m)先にあるリングに10投中何投通過するかを競うアキュラシー競技に熱戦が繰り広げられました。

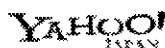
「静岡でかなえよう夢 つたえよう感動」の大会は、無事、閉幕しましたが、気持ちを新たに次年度開催の埼玉へ。選手の皆さん、来年、埼玉でお会いしましょう！

新着・更新情報

-  ホットな情報[富士宮市でスポーツ教室開催]を更新しました。(16/01/31)
-  第3回静岡県障害者フライングディスク競技記録会を開催します。[16/03/13(土)]

—更新日 2004/01/31(2002/12/07から)—

これ以前の更新状況は、サイト更新履歴へどうぞ！



ご意見、ご感想は、こちらまで。



Yahoo! 検索

静岡県障害者フライングディスク協会事務局(大塚宅)

〒424-0926 静岡県静岡市清水村松675-9 TEL/FAX (0543)34-1724

[ホーム](#) [設立趣意書](#) [会員になるには](#) [競技の豆知識](#) [活動紹介](#) [ホットな情報](#) [リンク](#)

設立趣意書

フライングディスク競技は、わが国でも年々愛好者が増え、広がりを見せています。それは、その特性から健常者、障害者、老若男女を問わず、いつでも、どこでも、だれもが手軽に取り組めることにあります。

また、障害者のフライングディスク競技は、知的障害者のスポーツとして、「静岡県ゆうあいスポーツ大会」「全国知的障害者スポーツ大会」において年々、参加する選手が増えてきており、陸上競技に次ぐ参加者数となってきています。

さらに、平成13年度からは、これまで別々に開催されてきた全国身体障害者スポーツ大会と全国知的障害者スポーツ大会の統合大会として、全国障害者スポーツ大会が宮城県で開催されますが、その正式種目として身体障害者にも参加枠が広がるなど、事実上、障害者のスポーツとして定着する傾向にあります。

しかしながら、障害者の方々が日常生活の中でスポーツを楽しむ機会はまだまだ少ないことも事実であります。このことから、フライングディスク競技を通して、その楽しさと興味を促し、心身ともに健全な発達と健康の維持増進に努めるとともに、その普及活動の母体となるべく指導者の養成や組織化を図るため、ここに静岡県や障害者関係団体等の御理解と御支援のもと、当協会を設立するものであります。

平成13年 3月20日

静岡県障害者フライングディスク協会

静岡県障害者フライングディスク協会のロゴ



TOP



Last Update
2003 11.20
 障害者カヌー協
 会の
 公式ホームペー
 シへ
 ようこそ！

Counter
026611

2003年7月24日に
 20000カウントを
 突破しました！

ハラマウントとは、「最高の」との意味。自分にとって最高のチャレンジができるスポーツ。それがカヌー。そんな気持ちをこめて私達は、障害者カヌーのことを、ハラマウントチャレンジカヌーと呼んでいます。

略して「ハラチャ」、今年のハラチャはいつ？近くてハラチャやらないの？そんな会話か当たり前になる日を目指して活動を行っています。

■NEWS 2003年9月13日、14日の両日、岐阜県長良川サービスセンターにて、ハラマウントチャレンジカヌー全国大会が実施されました。猛暑の大会となりましたが、参加者、スタッフあわせて100名以上が運動会と、ツーリングを楽しみました。詳細は次号の機関紙にて報告いたしますので、お楽しみに！

■会員募集 障害者カヌーの普及活動に共感してもらえる方、ぜひ会員になって、活動を支援してください。協会の活動と、入会方法については、以下のリンクを参照ください

■ 定番メニュー ■

- BBS 障害者カヌー情報交換掲示板、いつも、ほんわかと盛り上がっています。
- ハラチャ開催情報 全国の障害者カヌー ハラチャ開催予定（ぜひ一緒に笑いましょ）

■ 更新状況 ■

◇2003-11-20 2003年 各地の第1回ハラチャ三程（結果）を更新

■ いろいろ ■

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| ■障害者カヌー Q & A | ■障害者カヌー情報交換掲示板(BBS) |
| ■障害者カヌーQ & A (ウェア等その他種) | ■ハラマウントチャレンジカヌー全国大会について |
| ■障害者とカヌー関係する冊子誌等 | ■障害者が参加したカヌー競技結果 |
| ■障害者カヌーカヌーの土産 | ■リンク集 |
| ■ハラチャ チャレンジ | ■更新履歴 |
| ■障害者カヌー協会の活動について | ■ホームページ募集 |
| ■障害者カヌー協会の入会方法について | ■お問い合わせ |

障害者カヌーに関する Q&A

障害者 と カヌー、障害者 と アウトアスポートとは、縁遠いと思われがちですが、実際にはそんなに遠くにあるわけではなく、みなさんのちょっとしたチャレンジ意欲を、ちょっとしたヒントで後押しさせていただきます、よく質問のある内容を、まとめましたので、読んでみてください

<p>カヌーって恐くないの？</p>	<p>「カヌーって怖くないの？」と聞かれることがあります。自然が相手のスポーツですし、水が苦手な人も多いため、当たり前ですが、質問ですよね。</p> <p>カヌーに乗って怖いと感じるかとかは個人差があります。シュートコースターでもそうですよ。怖いと、気持ち良いは、と折り合わせなのかもしれません。</p> <p>水そのものを含めた自然を甘く見ると、大変恐ろしいものになってしまう事は確かでしょう。万が一、ひっくり返って水の中に投げ出されるのが怖いと思う人もいますか、カヌーをするときには、それを前提とした装備（ライフジャケット、ヘルメット等）を身に付けておこないます。カヌーをする場所の下見や、障害に応じた対応を事前にとすることで、安全に楽しむことかてきると思います。普段の生活にはない視線から見る風景は、恐さ以上の感動があると思いますよ。</p> <p>〈吉田一平 大阪在住 脊椎損傷〉</p>
<p>カヌーを体験してみたいけど？</p>	<p>障害者かカヌーをする、ということだけ、そんなに珍しいことではなくなってきました。都道府県によっては、障害者スポーツセンターや、リハビリテーションセンター、障害者交流センターなどで、カヌー体験会を実施している例も数多く出てきています。また、カヌーショップか、主体的に障害者のカヌー体験会を開いている場合もあります。</p> <p>お近くの障害者スポーツセンターなどで、やっているかどうか、お問い合わせ下さい。障害者カヌー協会に問合せいただいてもかまいません。その時点で、把握できている、全国の障害者カヌーイベントの情報を連絡させていただきます。</p> <p>ポイントは、とにかく、ご自身の状態を伝えていただくことだと思います。それと同時に、懸念事項も、明確に伝えてください。</p> <p>川でカヌーの体験会があっても、トイレの場所や、トイレまでのアクセス、河原での介助体制、カヌー内部のシートの厚みに至るまで、問い合わせてもらえれば、答えられると思います。</p> <p>またまた、障害者カヌーの指導かてきるインストラクターの数は少ないのか実態です。いろんな情報の中から、指導者、参加者かお互いに受け身ではなく、積極的に情報交換をしながら、安全第一でカヌーを体験してください。</p>
<p>カヌーをした人の声は？</p>	<p>とにかく、水の上に浮かぶってというのは、とても気持ちいいものです。これは、体験した者の本音です。</p> <p>私は、両足が脳性麻痺のため少し歩行障害かありますが、カヌーに乗って初めて感じた事は、川に住む魚やアメンボから見た景色か、こんなに簡単に自分のものになるんなら、ということでした。</p> <p>それから、川の上を自由に動けるようにカヌーの経験者から教えてもらったおかげで、思ったところへカヌーを移動することもでき、日常では得られない開放感と爽快感を味わっています。</p>

特にツーリングをすると、水の気持ちよさを味わいながら、カヌーの底を泳ぐ魚や欠々と変わりゆく情景を楽しむことができ、欠はどこにいらっか！?とはや考える位に楽しめるスポーツと思います
どんな障害を持っていても、一度川の上に出てみましょう。きっと楽しいことがあります。そして、新しいモノが見つかりますよ。

伊藤清文 京都府在住 脳性麻痺

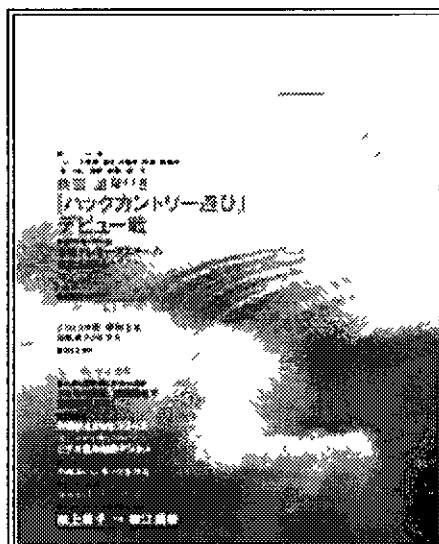
障害者カヌーに関するご質問があれば、協会宛てにメールをください。 parach@kcn.ne.jp

[TOPへ戻る](#)

障害者とカヌーに関する月刊誌、隔月刊誌をご紹介 ！

日本での障害者スポーツは、長野パラリンピックを契機にして、一気にメジャーになってゆきつつありますが、その活動を紹介するメディアは、まだまだ多いとは言えない状態です。もちろん、障害者スポーツが特別視して紹介されることは、本当の姿ではないと思いますが、今はまだ、多くのメディアで紹介してもらって、より多くの人に見てもらい、知ってもらうことが大切な時期だと考えています。

そこで、障害者カヌーに関して、何度も紹介してもらっている月刊誌、隔月刊誌を紹介します。また、障害者の生活情報誌も紹介します。機会があれば、ぜひご覧下さい



誌名【BE PAL ヒーバル】月刊誌

アウトドア遊びを紹介して20年 衰えない人気を誇る老舗、(?)雑誌。作家である野田知佑(のたともすけ)さんの、人気連載「のんびり行こうせ」では、1991年以降、何度も障害者カヌーのことを紹介していた。野田さんには、何度も障害者カヌー講習会を手伝ってもらい、感謝深謝多謝！

この本では、松上京子さんか、「車椅子から青空が見える」と題して、カヌーのことを含めた話がエッセイとして発売中。

<http://www.bcpal.net/>

雑誌コード 17631-12



誌名【WE'LL ウィル】月刊誌

カヌーやスポーツとは関係が薄いですが、障害者の「街遊び」「衣食住」などの視点から情報を発信。とかく、硬くなりかちなテーマを、明るく料理するのが本誌の特徴。理学療法士協会からの連載も興味深い。

毎号、表紙を飾るのが読者なので、応募してみるのも一興！?

現在、定期購読のみなのですか楽しい記事がありますよ。

<http://www.wellnet.co.jp/>

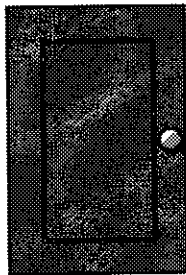
TOPへ戻る

障害者乗馬

私たちの活動にご関心をお寄せくださり、ありがとうございます。

障害のあるなしにかかわらず、乗馬を楽しみたい・・・。

私たちは、そんな気持ちで障害者乗馬(RDA～Riding for the Disabled Association～)の活動をしている非営利の市民活動団体です。
RDAの活動にご理解とご支援・ご協力をいただき、より充実した活動をしていきたいと考えます。
ぜひ、RDAの活動への参加と、ご支援をお願いします。



RDA Japanへのメール
rdaj@thanks.biglobe.ne.jp



RDA横浜へのメール
rda-yk@tc5.so-net.ne.jp

By RDA Japan & RDA Yokohama

RDA Japan

[\[HOME \]](#)
[\[もう一つの願い \]](#)
[\[今後の予定 \]](#)
[\[RDA Japanの歩み \]](#)
[\[活動の記録写真 \]](#)
[\[入会案内 \]](#)
[\[お薦めの書籍 \]](#)
[\[海外の文献 \]](#)
[\[頒布品のご案内 \]](#)
[\[リンク \]](#)
[\[HOME \]](#)

■ RDA Japanとは

RDA Japanは、イギリスRDAの理念に基づき日本国内において、心身に障害あるいはストレスを持つ人たちに馬と接する機会を提供し、健康や暮らしの質の向上をはかり、また、それを支援することを目的に1998年3月7日に設立された市民活動団体です。

【特定非営利活動法人 RDA Japan設立までの沿革】

1991年から日本国内で始まったRDAの理念に基づいた小さな活動が、1997年にRDA海外メンバーとして承認を受け、1998年3月に日本の実情に合った形でRDA Japan(任意団体)が発足しました。

その後、2000年5月14日の「特定非営利活動法人 RDA Japan設立の臨時総会」を経て、6月14日に東京都(所轄庁)へ申請、12月6日に特定非営利活動法人(NPO)として認証されました。

なお、設立日は、登記書類提出日の2000年12月14日です。

【RDA Japanの活動】

指導者、ボランティアのための講習会を実施し、その質の向上に努めています。

各地でRDA活動を行っている団体を支援し、各団体の協調・調整をしています。

・目的達成のために定期的な乗馬レッスンをを行うだけでなく、より多くの人たちが馬とふれあうことができるように、イベントとしての乗馬会を開催しています。

・RDA活動を行う人たちのために、海外からの報告や文献を含めたRDAの情報を提供しています。

経験豊富な諸外国の協力のもと、日本でのRDA活動の充実を目指しています。

私たちは民間の非営利の市民活動団体ですが、私たちの活動を医療、福祉、教育、馬事のそれぞれの専門家にアドバイザーとして協力をいただいています。

【RDA～Riding for the Disabled Association～】

障害を持つ人たちにも健常者と同じように乗馬や馬車操作を楽しむことを提供し、健康や暮らしの質の向上を図ることを目的として1964年に結成されました。イギリスに本部を置く慈善団体で、アン王女が総裁を務めています。イギリス国内に727のグループが登録され、24,900人のハンディキャップを持った人たちに乗馬の機会を提供しています。

イギリスだけではなく、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、フィリピン、マレーシア、香港など世界各国において、RDAの理念のもとで活動が展開されています。

NPO法人

RDA横浜

～障害をもつ人のための乗馬～

障害のあるなしにかかわらず、乗馬を楽しみたい…。
私たちは、そんな気持ちで障害者乗馬(RDA)の活動をして
いる
特定非営利活動法人(NPO)です。

- RDA横浜の紹介
- 障害者乗馬とは
- 活動の報告
- スケジュール
- 入会案内
- リンク

- 案内地図
- 問い合わせ



☆最新情報

☆

2004年2月6日

『活動の報告』を更新しました。

更新履歴はこちらです。

最終更新日 2004/02/06

Copyright (C) 2003 RDA Yokohama All rights reserved

本ホームページに掲載されている画像・文書等、すべての内容の無断転載・引用を禁止します。

RDA横浜

障害を持つ人のための乗

TOP

RDA横浜の
紹介

障害者乗馬
とは

活動の報告

スケジュール

入会の案内

リンク

RDA横浜の紹介

RDAとは、Riding for the Disabled Associationの略です。

障害を持つ人たちにも健常者と同じように乗馬や馬車操作を楽しむことを提供し、健康や暮しの質の向上を図ることを目的として、1964年に慈善団体のRDAがイギリスに結成されました。現在はアン王女が総裁を務めています。

乗馬による治療効果よりも、障害者の社会参加、あるいはレクリエーションの一つとしてとらえられており、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、香港などがかなり強い影響を受け、インストラクターの試験内容なども統一されています。

RDA横浜は、1997年にRDA英国本部より活動が認められ、横浜に根付いた地域活動をしています。



- 成り立ち
- 事業・活動内容
- 団体概要

問い合わせ 案内地図

RDA Japan

当ホームページの内容の無断転載を禁じます。

SHIROUMA

し ま ー

?

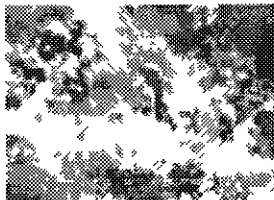
ろ う ま の 会
の 活 動 情 報
を 知 る 為 に
こ こ へ
お 参 照 下 さ い



???????????????????? 山には沢山の魅力があります

しろうまの会は障害者と健常者かともにL

最新更新日 2月4日 イ



参加者募集

例会についてや登山条件
参加しなくてもいい、など
とこについて。各川を習者
にだけ見てくださ。

あゆみ

会の発足や、などの所
おいて、お話をし
てくださ



山行記録

うまの会で行った山々
を写真で紹介しませう。

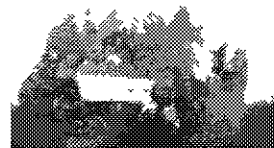
我らしろうま

しろうまの会、の、歌
が、から、愛、の、歌、



仲間へLINE

山、よ、ろ、な、山、の、メ
ン、ク、リ、ー、プ、の、山、ま
ち、の、ま、



なぜなぜ山登り

登山の基本やフナ、などを
しろうまの会用に判りやす
く説明します。



山で使える手話

しろうまの会の手話クリ
ンクを作ってくれました
(pdf)

イベント案内

山のイベント、山
の、お、話、



介助の方法

会独自で開発した登山イス
背負子についての説明
今後、介助の仕方などを紹
介する予定です。

Update



しろうまの会のあゆみ

会の始まり 会の主旨 活動内容 登山方法と介助のしかた これから



会の始まり

発足は1988年で、当時東京都板橋区でアジアからの労働者の支援を行っていたグループが主催したハイキングに車イス使用者も2名参加、車イスごとみんなで持ち上げ一緒に登頂しました。車イスの参加者の「はじめて山にきて感動したが、もっと高い山へ行ってみたい」との言葉を聞いた一人が、グループの仲間やその頃障害者と富士山に登る計画を立てていた別グループの人達を巻き込んで、会を発足しました。北アルプスの白馬岳ならば比較的安全に行けるということで、白馬岳の登頂を目標にし会の名前もそこからとり「白馬の会」と命名しました。(現在は「しろうまの会」に改名)その白馬岳には、1990年8月に登頂、98年には会の発足10周年を記念して2度目の登頂を果たしました。



会の主旨

登山を中心としたアウトドアの活動を、「障害のあるなしにかかわらず一緒に楽しむ。」これがしろうまの会の主旨です。「ボランティア募集」というかたちで人を集めたりした時期もありましたが、「山や自然を楽しむ仲間の中にいろいろな人達がいる、その中に障害者もいる」というのが基本的な考え方で、ボランティアということにこだわってはいません。ボランティアかどうかは、参加者個人が判断して下さればよいことだと思います。みんなで楽しく・安全に山に登るには、参加者一人ひとりの協力があってからこそ可能です。しかし、それは障害者がいる・いないに拘わらず、集団で山に登る時の当たり前の姿であり、時として私たちの普段の生活も同じではないか考えています。

実際に障害者が山に登るには、健常者が障害者の足代わりになることもありますが、その人が出来ることで参加して頂ければよいと考えています。



活動内容

活動は夏の泊りかけの山行を主体に、ハイキング等を一月に1回行っています。夏の山行は、毎年日本アルプス等の3千メートル級の山を目指し、ハイキングは東京近郊の千メートル前後の山から、花見やバーベキューをかねた低山や川沿いハイク等を行っています。また、冬には泊まりがけでスキーへも出かけます。

山行以外の活動では、月2回の例会を行っています。ここでは山行の準備や会の運営方法等の話合いを行っています。会に関する事はこの例会で決めていますので、会への参加者は出来るだけ出席をお願いしています。

月に1度、しろうまニュースを発行し活動内容を会員へお知らせしています。また1年に1回程度、文集を作成しひとりひとりの思いを載せています。



登山方法・介助のしかた

発足からしばらくは、車椅子使用者は会で試行錯誤のうえ独自に開発した登山イスを使用して登山をしました。登山イスとは、パイプを担架型に組んで中央に椅子を固定しそこに障害者が乗り、前後で担ぐといったものでした。しかし、この登山イスでは急斜面等では使用できないため、現在は市販の背負子に手を加えたもやおぶい紐などと併用したり、障害者介助用につくられたキャリアなど出来るだけ障害者にあわせた方法を取っています。

また夏山の場合等は、車イス登山者も出来る限り頂上近くからは車イスや這う等の方法で、最後は自力で登頂出来るようサポートしています。ハイキング等の場合は、行ける所まで車イスを押して行き、その先の状況等により背負子を使用したりオンブをしたりしています。自力歩行可能な者(下肢障害等)は健常者が腕をとる等の介助を受けながら登り、視力障害者は晴眼者のザックにつけた紐を持って登るかあるいは、腕をとって登ります。いづれにしても個々で障害の程度も異なり、介助のしかたもその場合々によってこととなります。基本的には介助される者に聞くのが一番だと考えています、との方法がよいかは試行錯誤しているのが現実です、アドバイス等ありましたら、よろしく願います。



これから

数年前までは、参加者も少なく人集めに苦労した時期もありましたが、現在は会員も増え、参加者も多いときには50名近くにもなりました。以前にくらべれば多くの人に参加してもらえるようになりましたが、参加したいが家が遠いので参加出来なかったり、家から出る事さえ難しいといった障害者の声も多く聞きます。これからは、会そのものが大きくなるのではなく当会のようなサークルが他にも多く出来たり、また一般の登山サークルが障害者を受入れるようになればと思っています。そのことにより、一人でも多くの人達に山登りの楽しさや自然の素晴らしさが伝わればと思っています。そして、いつの日か「しろうまの会」が障害者登山サークルではなく、ただの登山サークルと名乗る日が来ることを祈っています。

山や自然の素晴らしさは実際に行ってみなければわかりません。しかし行きたくても自分の力だけではそこまで行けない人達もいます。そしてひとりでは出来ないこともみんなの力を合わせれば、出来る事が沢山あります。そんな思いを大切にしながら、ひとりでも多くの人達に山の素晴らしさをしてもらおうと活動していきたいと思えます。

TOPへ戻る

山行記録 参加者募集 山行記録 我らしろうま 仲間へLINK 伝言板 イベント案内 なぜなぜ山登り 介助方法 山て使える手話

